

# 「高千穂郷」通信

NO.182

平成30年3月号

(発行：宮崎県西臼杵支庁)



## 【大日止昂小水力発電所】 竣工祝賀会

2月9日（金）に、日之影町大人地区の歌舞伎の館で「大日止昂小水力発電所」の竣工祝賀会が行われました。

この発電所は、日之影町の急峻な地形を活かし、同地区の農業用水路から約85メートル落水させたエネルギーで発電する仕組みで、年間31万キロワット以上の発電量を見込んでおり、売電収入は地区内の環境整備や伝統文化の保存継承などに活用されます。

同地区は、九州初の発電専門の農協設立や民間企業とのパートナーシップ協定など、発電施設を通じた先進的な取組を進めており、各方面から注目を集めています。



九州大学の佐藤辰郎助教が基調講演を行い、用水路に新たな価値を見いだした点について評価し、チャレンジする精神を子供たちへ継承することこそが、地域活性化に繋がるとの講話がありました。



## 管内のきんかん出荷が最盛期

1月25日（木）に、JA高千穂地区きんかん部会から、完熟きんかん「たまたま」の贈呈がありました。西臼杵地域には22戸の生産者があり、3月末までに約79トンの出荷が見込まれています。

2月16日（金）には、カフェARIGATOで「きんかん食べNight☆In高千穂」が開催され、一般の方や生産者等が参加し、完熟きんかんを使った料理を堪能しました。クイズなどのイベントもあり、会場を盛り上げていました。



多くの参加者がきんかんを満喫しました♪



## 五ヶ瀬町役場で「くるまthe談義」

市町村の若手職員と河野知事が意見を交わす「くるまthe談義」が1月24日（水）に、五ヶ瀬町役場で行われました。

地域活性化に向けた、五ヶ瀬ハイランドスキー場や白岩山等の観光資源の活用、住民が安心して暮らせる医療体制の確保など、五ヶ瀬町の発展に向けた提言が知事に対して行われました。



△くるまthe談義の様子



## 宮崎県SAP冬期大会

1月31日（水）に、JA・AZMホール（宮崎市）で「宮崎県SAP冬期大会」が開催され、西臼杵地区から甲斐達也さん（日之影町）と、津隈雅士さん（五ヶ瀬町）がそれぞれ出場しました。発表の内容について充実を図り、練習を重ねてきました。当日の上位入賞は叶いませんでしたが、西臼杵代表の2名にとっても貴重な経験となり、今後の更なる活躍が期待されます。

応援にかけつけた会員も、他地区の発表を聞き、今後の活動や自身の農業経営に対する取組みについて考える良い機会となりました。



△津隈さん（五ヶ瀬町）の発表



## 五ヶ瀬町でしいたけ教室

五ヶ瀬町内の子ども達に、地域の代表的な特産物である「しいたけ」の栽培から収穫、販売までを体験し、関心を高めてもらうことを目的とした、駒打ち体験の教室が2月6日（火）に、五ヶ瀬町の三ヶ所中学校で開催されました。

町内の4つの小学校から、6年生の29名が、地元のしいたけ生産者や種駒業者の指導を受けながら、駒打ちや伏せ込み作業を体験しました。作業中は、生産者に対してしいたけの種類や栽培方法などの質問が多く出されました。また、伏せ込んだ原木は、今年4月に中学校へ入学した後、自分たちで管理・収穫し、順調にいけば中学2年の修学旅行の時に、東京で乾しいたけとして販売する計画です。



△しいたけ教室の体験作業



## 再造林の推進やドローンを活用した研修会

宮崎県造林素材生産事業協働組合連合会の主催で、高性能林業機械やドローンを活用した研修会が開催されました。

当日は、林業の課題である「再造林の必要性」のほか、いつでも植えることが出来て活着が良い「コンテナ苗の利点」について学んだ後、実際に高性能林業機械で地拵えを行った林地に、コンテナ苗を植栽しました。

現在は主に、森林組合の作業班員が再造林を行っていますが、将来的には素材生産業者も再造林に取り組むことが出来るように、今回の研修を通して、再造林に対する理解を深めている様子でした。

また、様々な場面で活用が期待されるドローンについての研修も行われました。林業におけるドローンの活用法としては、作業前の林内状況の確認や、架線設置のためのリード線の運搬等がありますが、今後は他の作業にも応用できるものと期待されています。



△高性能林業機械による地拵え作業

## 【お知らせ】3月は自殺対策強化月間

宮崎県では年間およそ200名の方が自ら命を絶っています。

悩みには必ず解決の糸口があり、自殺は防ぐことができます。西臼杵地域自殺対策推進協議会では、「西臼杵地域こころの電話帳」を作成しました。

身体や心の健康や、日常生活の悩みなどを相談できる施設を掲載しています。医療機関や道の駅、Aコープ等のスーパーなど管内各所で配布しています。どうぞお手に取ってご覧ください。

一人で悩まないで、誰かに話してみませんか？



## 西臼杵地区林野火災予防パレード

県では、全国山火事予防運動（3月1日～7日）に先駆けて、宮崎県林野火災予防運動を展開しており、今年は1月26日～2月2日までの間を運動期間として活動しました。

西臼杵管内では、「小さな火 大きな森を破壊する」の統一標語のもと、1月26日（金）に、西臼杵広域行政事務組合消防本部や宮崎北部森林管理署、西臼杵三町、西臼杵森林組合などの関係者が参加し、林野火災防止パレードを実施しました。

毎年1月から3月にかけては、林野火災が増加する傾向にあり、昨年は管内でも2件発生しました。たき火やたばこ等の不始末による林野火災を発生させないように十分注意しましょう。



△出発式とパレードの様子

## 第33回神話の高千穂建国まつり



2月11日（日）に、「第33回神話の高千穂建国まつり」が行われました。

古代衣装に身を包んだ町民ら約600人が、高千穂神社を出発し、町の中心部を通ってくしふる神社までの約1.4キロをパレードで行進しました。綱引きで勝敗を決する「グループ対抗国引き大会」や、みやざき犬が踊るステージイベントのほか、大きな釜で作る名物の「建国だご汁」の振る舞いなどが行われ、小雪が舞う厳しい寒さの中ではありますが、会場は賑わいをみせました。

前日10日には、神様コンテストが開催され、16名がコンテストに参加しました。紙相撲で勝敗を競ったり、自慢の装いでステージを堂々と歩き、審査員にアピールする姿がみられました。神武天皇をはじめ、6名の神様が選出され、当日はパレードに参列し、会場を盛り上げました。

## 高千穂郷の手仕事を探すシリーズ【第4回】

第4回目の手仕事シリーズは、日之影町の「わら細工たくぼ」を紹介します。わら細工職人である甲斐陽一郎さんは3代目として、素材となる“わら”を苗から育て収穫管理し、熟練の手作業でわら細工を生みだしています。トヨタの創作活動支援プロジェクトにも選出されています。

日之影町に、「わら細工たくぼ」があるのを皆さんご存じですか。創業六十余年のたくぼの三代目、甲斐陽一郎さんを中心に、注連縄（しめなわ）やお飾りなどを制作しています。一昨年、静岡県で初めて個展を開き、今年は東京の国立市で、ワークショップを兼ねた「わら細工たくぼのしごと展」を開催する予定です。

西臼杵には、神楽などの文化が古くから根付いており、多くの家庭で一年を通して玄関に注連縄が飾られています。また、管内の民家や公民館、宿泊施設等には、たくぼの注連縄が飾られている所も多く、生活の中で自然にわら細工を必要とする西臼杵の風土や習慣があることに、甲斐さんはとても感謝をされています。

祝亀や祝酉などの縁起物の飾りや生活用具は特に高い人気を誇ります。農作業と両立しながら、一年を通して制作を行っており、台風等からの稲の被害を最小限に食い止め、収穫後の青わら等の乾燥・湿度管理、わらを縛ってわら細工を仕上げるまでの精巧な手作業など、幾重もの工程を経て、注文のあった作品が仕上がります。



小学生の時にはすでに祖父の手伝いでわらを縛っていた甲斐陽一郎さん

トヨタの創作活動の支援を受けて、ランプシェード「HINOKAGE」を制作した甲斐さん。日々の生活の中でどのような形でわら細工を取り入れるかという課題にチャレンジしました。

伝統的な注連縄だけでなく、現代生活に溶け込む作品を制作したいと意気込む甲斐陽一郎さん。全国で活躍される姿に目が離せません。（手仕事シリーズ・おわり）

細微な造形が壁を美しく照らし出す「HINOKAGE」




複数の作業工程を経て一つの作品が仕上げられます。



【住所】宮崎県西臼杵郡日之影町大字七折13782-2  
【電話】0982-72-3044

◎お問い合わせ先

宮崎県 西臼杵支庁 総務課 TEL 0982(72)2181 FAX 0982(72)3760

Facebookページ  「ウキウキ! 好き好き! ニシウスキ!」更新中!

